

第2回野球大会成功裡のうちに終了す

日刊 勤労千葉

80.7.1

No470

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五八・九（公衆）五五五（22）七二〇七

館山支部、堂々初の二連覇に輝く

勤労千葉結成一周年記念第二回野球大会準決勝、決勝戦は六月二十七日、千葉市内相銀グラウンドに於いてそれぞれ勝ち進んだ館山、幕張、新小岩、勝浦の四支部の間で争われた。新緑の木々に包まれたグラウンドは、前日の雨も手伝いまさに勤労千葉の最強チームを決するにふさわしい好条件の中で各チーム共持てる力を出し切り好ゲームが展開された。優勝した館山支部は、準決勝で新小岩支部と対戦し投手戦となり、最終回寸時のチャンスを生かし決勝戦へ進出。一方、強豪勝浦支部を打ち破って進出した幕張支部とは、まさに対照的な「柔」と「剛」の組み合わせとなり結局一対一のまま促進ルールにもつれ込み十五時四十五分、柔よく剛を制し館山支部が初の二連覇を勝ちとった。



＜優勝した館山チーム＞

準決勝第一試合

幕張 4 0 0 0 3 7
勝浦 0 0 0 0 0 0

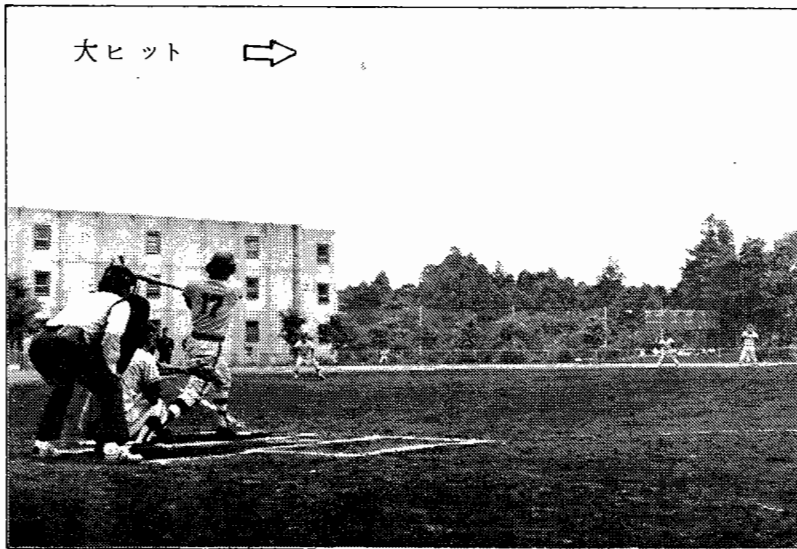
一回の表幕張、ピッチャーの立上り悪く二四球を選ぶ、二死後六番三瓶3球目を左翼頭上を越える今大会初の満塁ホームランで大量四点を先取。一方勝浦は一番鈴木四球、二番補フライでダブられ、忽ち2アウト、三番中村三遊間安打を放つも後続かずチェンジ。五回幕張、八番加藤の左前安打九番四球、一死後宇田川の中前タイムリで二点を追加、三番境四球、ピッチャー滝口に代る。四番近藤三ゴロ、その間また一人帰って大きく水をあけた。その裏勝浦、七番高梨左前安打続いて代打角野三ゴロにさらに代打吉野左前安打、二死二番四球で歩き満塁、勝浦必死に食い下がるもう一つ打てず五回コールドで幕張圧勝。

準決勝第一試合

新小岩 0 0 0 0 0 1 0
館山 1 0 0 0 0 0 1×0 2

一回の裏館山は、一死、二番山口四球、瞬時のすきをついて2盗に成功、そして三番吉野が右前へタイムリを放って一点を先行。新小岩は一、二回と三人づつで打ちとられ、三回ようやくチャンス到来するもバント失敗、吉野投手の絶妙なコントロールに押えられる。六回の表新小岩は一番関、内野エラーで二進を奪い二番松本（親）バント、ランナー三壘、三番岩崎もこの回二つ目のエラーを貰いようやく一点を返し同点。最終回、新小岩、二死、代打柴崎、大岩と安打を放つも今一歩及ばず得点にならなかった。その裏館山は九番から始まり一死一番藤浪はエラーで出塁、ただちに盗塁、そしてワイルドピッチで三壘に達し二番山口が右越え安打であっけなくサヨナラ。新小岩無念の涙をのんだ。

大ヒット →



＜三瓶選手の大ヒット＞

決勝戦

館山	00010000	2	3
幕張	10000000	1	2

技とキャリアの館山（平均三十六歳）力と若さの幕張（平均二十三歳）非常に対照的なおもしろいカード。一回の表館山三者凡退、その裏、幕張一死で二番宇田川デッドボール、牽制エラーで二進、三番当り屋三瓶、中越の二塁打で一点を先取。三回の表館山は八番加藤の右翼右を破る痛烈な三塁打を放つもスクイズ失敗して好機を逸した。四回の表館山は打者一巡してボールが見えてきたか、二番山口中前安打続いて三番吉野も中前にはじき返し、ノーアウト一・三塁四番デッドボールで満塁五番後藤スクイズを決めて同点とし試合はおもしろくなった。一方幕張は二回以降吉野投手にうまくかわされ、ずるずると回を重ね均衡状態のまま最終回を迎える。館山三者凡退。幕張一死後伊藤三塁左へ強打、すかさず盗塁、八番加藤バント、内野エラーその隙をついて三塁ベースを回りホームをつくも一塁手送球よくタッチアウト、館山胸をなでおろす。

ついに促進ルール（ノーアウトランナー一・二番、二・三塁、バッター三番）を適用。三番吉野スクイズ、ピッチャー暴投その間二者生還しさらに追加点のチャンスはあったが、境投手気力の投球で七・八番を三振に打ちとる。幕張も全員一丸となって追撃に転ずる。一死二・三塁で四番近藤バントで満塁となり五番宇井遊ゴロ、その間一点を返しその差一点とせまる。八番境左へ痛烈な当りを飛ばしたが左翼手しっかり取って試合終了。最高殊勲の吉野投手、ベンチに入るヤヤジ將軍、マウンドにあつては二連投。その「若さ」ぶり、ホントに三十八歳なのか？幕張も先輩チームを相手にチームワークも見事、よく健闘した。

成績

優勝	館山支部
準優勝	幕張
第三位	勝浦
第三位	新小岩
最高殊勲選手	吉野英孝（タテ）
打撃賞	後藤光良（タテ）
敢闘賞	山口信行（タテ）
敢闘賞	三瓶悦男（マリ）

7.5津田沼に総力結集し、「再建」策動を粉碎しよう!